

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

103

## 長岡京の大型建物

長岡京の調査では、大小様々な大きさの建物跡が発掘されています。その大半は比較的規模の小さなもので、大型の建物が確認される例はそれほど多くはありません。大型建物は、最近話題になった東院をはじめ左京域での調査例が目立つものの、右京域ではこれまでのところ非常にまれです。そこで今回は、数少ない右京域での一事例を紹介しましょう。

その大型建物とは、井ノ内にある長岡第十小学校を建設する前の発掘調査で見つかったものです。南北二間（6m）、東西七間（21m）に復元できる掘立柱式の東西棟建物で、南北二面にそれぞれ3・9mほど張り出した庇が付いています。柱を埋めた穴は、一辺が1・5m前後ある大きなもので、柱を抜き取ったものもありますが、柱根



▲南から見た大型建物跡の発掘現場



▲復元された建物跡（長岡第十小学校）

が多く残っていました。柱根は、いずれも直径が約40cmもある立派な桧材を用いていて、補修したものがあることから、平城京など前の都にあった建物を移築した可能性が強く、足場を組んで建てられたことも明らかになりました。この大型建物は、長岡宮の真西にあたる右京二条三坊二町のほぼ中央に位置しており、貴族の邸宅あるいは役所の正殿（中心的な建物）であったことは確かなようです。

現在この建物跡は、小学校のグラウンド東端に柱のあった位置をコンクリート柱で復元してあります。そして、見つかった柱根は、長岡京市埋蔵文化財調査センターと向日市文化資料館に展示してありますので、興味のある人はぜひ一度見学して下さい。